

高齢者福祉課 市長が長寿者を表敬訪問 100歳以上の方に敬老祝金を贈呈



百歳を迎えた小田トシコさん(実留町)(中央)

木山耕三市長が10月から12月にかけて、長寿を祝福するため、市内の百歳以上の高齢者を訪問し、敬老祝金を手渡しました。あわせて、本年度中に満百歳を迎える方(基準日/9月15日の「老人の日」)に贈られる内閣総理大臣からのお祝い状と記念品の銀杯を手渡しました。

観光振興課 庄原の美味しいが広島駅に集結 庄原里山マルシェat広島駅



庄原産新鮮野菜などを販売

市と西日本旅客鉄道株式会社広島支社は10月26日、再開発が進んでいる、注目の広島駅北口で「庄原里山マルシェat広島駅」を開催しました。このマルシェは、庄原市の秋の観光PRとおいしい商品を対面販売することで、誘客や認知度向上、販路拡大につなげることを目的に、庄原市の活性化施策の第2弾として行いました。



海外からの観光客も立ち寄った

当日は、庄原市道の駅等連絡協議会員や、逸品づくり事業者など10店舗が参加しました。新米、大根、キャベツ、白菜、トマト、リンゴなどの新鮮な野菜や果物をはじめ、ジャム、ハチミツ、ケーキ、せんべいなども販売しました。出店者からは「広島駅はともなも通りが多く、継続的に開催できればうれしい」「お客からの、「次の開催はいつ?」との質問が多かった。今後も定期的に開催して庄原をPRできればと思う」などの声が聞かれました。

生涯学習課 「親の力」をまなびあう 親プロ講座

10月10日に峰田小学校、25日に西城紫水高校で「親の力」をまなびあう学習プログラム、通称「親プロ」講座を開催しました。親プロは、参加者同士が育児の場面での悩みなどを話し合いながら、子どもや家族への対応の仕方や問題解決方法のヒントが得られるよう開発された学習プログラムです。



西城紫水高校の生徒も真剣に取り組んだ

峰田小学校では、保護者と教職員が、親離れしていく時期の子どもの心身の変化や、子どもの主体性を伸ばす親の在り方について学び合い、「みんな同じように悩んでいると感じた」「自分の子育てを振り返ることができた」などの感想がありました。

西城紫水高校では、生徒が、子育て準備期に親として命に関わる責任の重さについて学びました。生徒は、「親になるとはどういうことか」「自分と親との関係とは」と真剣に考え、意見を発表していました。



問い合わせ
生涯学習課社会教育係
0824-73-1188
●親プロについては、市ホームページもご覧ください。
ホームページ
http://www.city.shobara.hiroshima.jp/main/education/shogaiakushu/post_967.html

危機管理課 災害対応に貢献 平成30年7月豪雨における感謝状を贈呈



木山市長から感謝状が手渡された

11月18日、口和総合運動公園で、平成30年7月豪雨災害の発生に際し、住民避難や応急対応、市民生活への支援および再建などに貢献をした団体、事業者などに対して、木山耕三市長は、感謝状を贈呈しました。

危機管理課 地域防災力向上を目指す 平成30年度庄原市総合防災訓練



空中用消火バケツを装備したヘリコプター

11月18日、口和総合運動公園周辺一帯で、市と市消防団および備北地区消防組合が主催の、平成30年度庄原市総合防災訓練を実施し、庄原警察署、口和自治振興区、広島県防災航空隊を加えた6団体、約150人が参加しました。

教育指導課 庄原の未来を学校・家庭・地域が一緒になって考える 庄原市教育フォーラム



10月28日、「庄原の未来、10年後のふるさと庄原」をテーマに、庄原市民会館で教育フォーラムを開催し、約650人が参加しました。



中学生による提案発表(上2)と東城小児童による発表(下)

君に仕事はあるのか?と題して講演をしました。今後、AIに仕事を奪われないためには、正解が無い、正解が1つではない問題を解決する力である「情報編集力」が特に重要であることなど、参加者同士での協議を交えながらのテンポのよい講演で、会場全体が大変盛り上がりました。

いちばん
づくり課

比婆いざなみ街道のPRと沿線地域の活性化を図る

いざなみマラニック2018～第2回比婆いざなみ街道マラニック～

10月28日、比婆いざなみ街道沿線に舞台に、タイムや順位にとらわれないマラニックを通して、庄原市の魅力的な食文化、景観などを発信するイベント「いざなみマラニック2018」第2回比婆いざなみ街道マラニック」を開催しました。「いざなみマラニック」という愛称は、このマラニック大会により親しんでもらえるよう今回から採用したものです。

本年のコースは、庄原市比和総合運動公園（比和町）をスタートし、熊野神社（西城町）、アツプルロード（高野町）を経由し、スタート地点に帰る「66kmの部」と、同じく比和総合運動公園をスタートし比和町内を巡る「11kmの部」でした。

大会当日は、朝こそ少し雨が降っていましたが、徐々に天候も回復し、昼には気持ちの良い秋晴れとなりました。ランナーの皆さんは中国山地の山々の絶景を楽しみながら、地元の方々が運営したエイドステーションで比婆牛やしし汁、リンゴ、おこわなど街道沿線のおいしい食を堪能している様子でした。

参加した多くのランナーからは「地元食材の食事は最高だった」「紅葉のきれいな庄原の山々を眺めながら走ることができ楽しめました」「地域の皆さんとのエイドステーションでのふれあいや沿道から送ってくれた温かい声援が心に残った」という感想が聞かれました。



いざなみマラニック 2018	参加者
66kmの部	149人
11kmの部	186人
合計	335人



11kmの部 スタート前記念撮影



走行風景



66kmの部 スタート



スタート 石川実行委員長あいさつ



66kmの部 湯川コミュニティセンター(エイド)



66kmの部 イザナミ茶屋(エイド)



11kmの部 比和自然科学博物館(エイド)



ゴール 参加賞(特産品)を手に記念撮影



ゴール 木山市長と記念撮影



ゴール

大会の様子は「いざなみマラニック」公式HP上の写真でご覧ください。

公式HP <http://shobara-maranic.com/>



市民
生活課

新しい機能を備え一部使用開始

庄原市斎場「和の丘」落成式



テープカットの様子

10月30日、庄原市斎場の落成式を行い、同日、見学会も行いました。

老朽化に伴い、平成29年度から整備を行ってきた庄原市斎場は、愛称を「和の丘」とし、火葬を行えるだけでなく食事をしながら休憩できる待合室や、通夜・葬儀を行うことのできる式場を併設した一体的な施設です。近年の地域実情を踏まえ、祭壇を常設した式場のほか、待合室など新たな設備を設け、「心穏やかに過ごせる施設」として整備してきました。

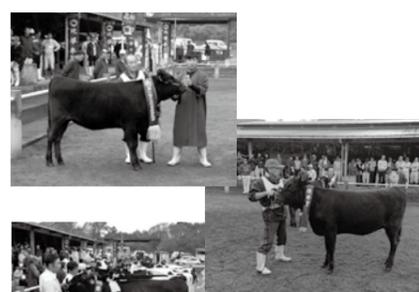
火葬部門と待合部門が11月1日から使用を開始しました。葬祭部門は、駐車場拡張工事に合わせ、来年4月1日から使用できます。

見学会参加者は、「これまでの庄原市斎場と全然違う。新しくなって安心」と話していました。

農業
振興課

庄原市内農家の和牛・乳牛が大躍進!

第94回広島県畜産共進会



上から、ふくしげたつ38、ほりまさ3の1、ピゴラス メビウス ノッチ

10月23日、三次家畜市場で第94回広島県畜産共進会「種畜の部」が開催され、庄原市内からは27頭(肉用種20頭・乳用種7頭)が出品されました。

肉用種牛の部(子牛の部)では立川道^{たてがわ}和さん(東城町)出品の「ふくしげたつ38」が、肉用種牛の部(成牛の部)では赤木^{あかき}一超さん(東城町)出品の「ほりまさ3の1」が、乳用種牛の部(第1区)では、才木敏希^{さいき ひとしき}さん(峰田町)出品の「ピゴラス メビウス ノッチ」が、それぞれ首席を獲得しました。また、立川道和さん出品の「ふくしげたつ38」が肉用種牛の部で総合首席を獲得するなど、庄原の和牛・乳牛が優秀な成績を収めました。

今回の結果で、市内農家の飼養管理技術の高さを改めて示すことができました。今後も中国地方有数の畜産地帯としての地位を確固たるものとするため、関係者が一丸となって家畜の改良を進めていきます。

企画課

友好と交流の絆を深める

中国四川省綿陽市友好訪問団が庄原市を訪問

11月1日・2日の2日間、綿陽市人民政府の顔超^{けん ちょう}、常務副市長を団長とする綿陽市友好訪問団6人が、本市を訪れました。

庄原市と綿陽市は、平成2年に「経済技術友好協力協定」を締結し、25年以上、友好交流を継続しています。これまで、公式訪問に加え、両市の小中学生や議会関係者などの相互訪問などによって友好関係を深めてきました。

訪問団は1日に木山耕三市長を表敬訪問し、顔超団長から、「このたび、庄原市を訪れることができてうれしく思うと同時に、さらなる提携と協力ができることは大変光栄なことと感じています」と挨拶がありました。今回は、2020年度に協定締結から30周年を迎えることから、記念行事のあり方などを確認しました。また、来年9月開催予定



写真左から、堀井市議会議長、顔常務副市長、木山市長

の第7回中国(綿陽)科
学技術都市国際科学技術
博覧会への招待もあり、
和やかな雰囲気の中で懇
談が行われました。

訪問団は、国営備北丘
陵公園および庄原市有害
鳥獣処理施設を視察し、
同処理施設では、施設の
概要やイノシシの処理数
などの説明を受けた後、
作業の様子を見学しまし
た。

今回の交流を通して、
両市の友好協力関係と相
互理解をより一層深める
ことができました。